配布資料３

文化審議会国語分科会「敬語の指針（報告案）」に寄せられた意見の概要

番号	意見提出者	所属・職業等	「敬語の指針（報告案）」に対する意見の概要	扱い
1	女性（４３）	会社員兼大学生	○差別の名残だとか平等に，という安易な発想から，「へりくだる」という表現をなくす意味が分からない。	要検討
			○敬語は日本の文化であり，きちんと継承されていくべきものである。	
			○日本語は，相手と自分の関係や使われる場面などを推し量って使い分ける場面依存言語で，尊敬語・謙譲語・丁寧語という３分類が最も簡単明瞭である。学者の自画自賛分類である難解な５分類には反対する。	要検討
			○言葉の乱れや変化はどの時代にも起こるもので，それを止めることはできない。国はそのことをもう少し自覚した方が良い。	
2	男性（８０）	無職	○尊敬語を「いらっしゃる・おっしゃる型」としているが，むしろ「れる・られる型」が基本になると思う。	
			○「いらっしゃる」，「おっしゃる」は話し言葉のように感じるので，「あられる・おられる・いられる」「言われる・話される」が適切。	
			○１１ページ［解説１］の「先生は来週海外へ行くんでしたね。」は尊敬語を用い，「先生は来週海外へ行かれるんでしたね。」とすべき。	
			○書き言葉として簡潔なすばらしい表現である「文語体」がなくなってしまうことに寂しさを覚える。	対象外
3	女性（７７）	主婦	○新聞の皇室に対する敬語で常に気になることは，一般的に皇室に対する言葉遣いがぞんざいなように感じることである。例えば，天皇陛下が野球の王監督に＜「野球のためにもお体を大事にしてください」とはげました。＞という記事など。	対象外
4	女性（５３）	主婦	○上司に対する部下の会話が取り上げられているが，こうした例を挙げるのは行き過ぎである。「こういう方がより配慮のある表現になりますよ」ということの提示にとどめるべきである。どのような相手にどういう敬語を使うかは，個人の自主性にゆだねられる問題であり，上司に対する敬語の使い方が悪いということで人事査定されてはたまらない。	要検討
			○敬語は，人間関係をやわらかく調節する緩衝材としての役割を持つ反面，常に上下関係を意識しなければならない息苦しさも持っている。	
5	男性（５０前後？）	教員（高校国語）	○敬語を理解しやすく，教えやすくなるので，５分類に賛成する。	
			○第３章【８】の「御乗車いただけません」は誤りである。	
			○第３章【１６】の「御利用いただきましてありがとうございます」は誤り。「御利用いただきまして，ありがたく存じます」ならば可能。	
			○「いただく」と「くださる」が混同され，「万障お繰り合わせの上，御出席いただきますようお願い申し上げます」「何とぞ，この趣旨に賛同いただきまして，御寄附のほど」等，誤用例は枚挙にいとまがない。	要検討

			○「いただく」が接続している動詞の表す動作の主語がだれであるかを考えれば誤らない。「いただく」と「くださる」の違いを適切な例を挙げて詳しく説明してほしい。	
6	男性（４９）	会社員	○私は，次の条件に合う場合，「大変御苦労をお掛けしております」という意味で，「御苦労様」に「です」を付け足して，上司等の目上の人に「御苦労様です」と使っている。 条件１：その人の苦労が見えている。 条件２：その苦労は通常の苦労よりもかなり大きい。 条件３：その苦労は「御苦労様です」と言う人が直接の原因ではない。	要検討
7	男性（５４）	会社員	○第３章【１６】は，ビジネス上のマナーとして多くの人が困っているところなので，【解説】に次の説明を追加してはどうかと考える。 ・（【解説】の「また「私のお帽子」など，美化語として用いる場合もある。」の後に）自分側の動作やものごとを謙譲する場合に，「（先生を）待ちます。」「（先生を）待たせていただく。」という場合と，「待つ」という自分側の行動を表す動詞を名詞形（動名詞？）にして，その上で，その名詞を美化語して「お待ち」「お持ち」「お尋ね」，「する」の丁寧語「します」をつなげる場合がある。自分側の行動を表す動詞を名詞化した時点で，その名詞は「待ち」「持ち」は謙譲の意味を失っているので「お」を付けて美化語とするので問題はない。	要検討
8	女性（５２）	学校職員	○「へりくだる」「遠慮する」「譲り合う」などの言葉をもっと低学年のうちから使うようにしていったら，と思う。そうした言葉を知っている，そうした言葉で育った子供は，そうした気持ちが分かる人間になってくれると思う。	要検討
			○「敬語」も全体として，他の外国には見られないような独特の，日本社会を品格ある居心地の良さで包んできたような気がしている。	
			○具体的な修正案は◆別紙１◆参照。	要検討
9	女性（４６）	会社員	○多用されている「いただく」のほとんどは謙譲語である「いただく」を丁寧語のつもりで使用している誤用である。	要検討
			○「いただく」を使う場合は，まず「もらう」に置き換えて，「私が」「あなたに」を補って，違和感がないときに限って使えば良い。	
			○検討対象とした例文（不適切な使い方の例） 例文１：お得な割引券を御利用いただけます。 例文２：快速電車に御乗車いただけません。 例文３：書類をお読みいただき，必要事項を御記入いただき，御郵送いただきたくお願いします。 例文４：御記入いただいた個人情報は，他の目的には使用しません。 例文５：アンケートに御協力いただいた方に景品を差し上げます。 例文６：申込用紙に必要事項を御記入いただきます。 例文７：新製品を御利用いただきましたか。 例文８：申込用紙を御記入いただかないと，手続きができません。 例文９：必要事項を御記入いただきますようお願いします。 例文10：必要事項を御記入いただき，御郵送ください。 例文11：多くの方々が，御声援いただき，ありがとうございました。	

10	女性（３５）	研究所事務員	○「粗茶です。」「つまらないものですが，お召し上がりください。」などの表現は，相手に対して失礼にならないのか。	
			○「おっしゃられる」のように尊敬語が二つ続くことは誤りと聞いた。	要検討
			○テレビの字幕に誤った日本語が表示されると，それを正しいものだと思い込む傾向がある。また，日本人として知っておかなければならない敬語を具体的な例文に取り入れて，それを全国の国語教師が実際に発音して子供たちに耳で覚えさせると効果的だと思う。	
11	男性（７０）	保護司	○上司や目上の人に対するあいさつ用語の指針を示してほしい。（「お疲れ様」は上司や目上の人に使うには不適切とされるが，「お疲れ様でございます」や「お疲れ様でございました」もすっきりしない。奥秋教授の説く「お疲れでございました」も評判がよくなかった。）	対応済
12	女性（４８）	自由業（経営コンサルタント）	○＜よりどころのよりどころ＞として活用できるものであると思う。	
			○５分類にする理由がよく分からない。原理・原則はシンプルである方が一般社会に受け入れられると思うので，従来どおり３分類で良い。	要検討
			○小学校や中学校での学習・指導において，謙譲語Ｉと謙譲語Ⅱをどのように理解させるのか難しいと思う。	
13	男性（５５）	無職	○用語に普段余り目にせず，意味のよく分からないものが少なくない。例えば，「基本的に平等な人格」（第１章・第１－２），「相互尊敬」，看過できないのは「立てる」である。（「立てる」は庶民の感覚では，打算的，作為的な意味合いを含むもので，到底承服できない。）	要検討
			○分類が分かりにくい。「お○○」が尊敬語になったり，謙譲語になったりする点や謙譲語Ⅱの説明に説得力がない。	
			○本来の語の成り立ち等に沿って整理することを提案する。 ＜言葉による敬意表現の分類＞ A　尊敬表現　　B　謙譲表現　　C　丁寧表現 D　儀礼的表現（仮称）　　E　婉曲表現 ＜これらの表現に使う敬語の分類＞ a　尊敬語　　b　謙譲語　　c　丁寧語 d　美化語　　e　儀礼語（仮称）	
			○慇懃無礼のとらえ方が甘い。その本質は，敬語の反語的用法として，話し手がある人物を非難・侮辱する目的で用いるものである。	対応済
			○尊敬表現に可能や不可能の意味を添えるのは，敬意を表する人物の立派な行為が可能だ，不可能だと表明するということだから，基本的になじまない。特に問題なのは，可能・不可能でもって実質的にその人物の行為を許可・禁止する場合である。	
			○謙譲表現の場合は，謙譲行為の可能・不可能を言うものなので問題が比較的少ないが，その否定形は，話し手の側の都合を一方的に押し付ける感覚を生ずることがあるので，注意が必要である。	
			○「尊重する」を「立てる」の同義語と考えているのではないか。尊重する＝尊び大切にするだから「相互尊重」というのは，上位の人も下位の人の立場を尊重することになるが，それは不可能である。	要検討
			○答申が対象とする人は「敬語使用の基本的考え方」を分かっているのだから，それに関する誤解を招きかねない記述は削除すべきである。	

14	男性（２６）	会社員	○何のために指針を作成したのか分からない。	対応済
			○敬語の複雑さ・難しさを更に増幅させる新たな分類は，総括・簡略化の方向に逆行するものである。敬語の細かな分類を捨て，尊敬語・謙譲語・丁寧語すべてを「敬語」としてひとまとめにするのが理想である。	要検討
15	女性（不明）	教員（中学国語）	○全体的に繁雑になり過ぎて，「日本語」の良さが失われていってしまうのではないか，と危惧する。	要検討
			○謙譲語Ｉと謙譲語IIの分類は混乱を来すので，「尊敬語と謙譲語はどちらも＜誰かを敬う＞気持ちの表れであり，＜敬う誰か＞の動作や物を直接持ち上げた表現が尊敬語で，＜自分側＞の動作や物を下げることで間接的に＜敬う誰か＞を持ち上げた表現が謙譲語である。」としてはどうか。これで，すべての語について説明できると思う。	
			○日本語は，関係性をお互いにとらえ合って（思いやって）使う言語である，という日本語の大切な特徴について言及した方が良い。	対応済
			○尊敬と謙譲が上下関係の意識の現れであるのに対して，丁寧語は遠近関係の意識の現れである，と説明した方がはっきりする。	
16	男性（６７）	無職	○第３章【２５】の【解説１】で述べている社内の人々を聞き手とする場では「社長からお言葉をいただきます」の方がより適切ではないか。	
			○美化語を多用すると尊敬の念が薄れることがあることを明示してほしい。世の中の用法を追認するのではなく，指導的な記述が望ましい。	要検討
			○「お」「ご」を付けるのがふさわしくない語があることを明示してほしい。（「お年寄り」という語は問題がある。）	
17	女性？（不明）	教員（中学）	○「あなた」に対応する尊敬語が現代日本語にはないので，国で造語してはどうか。	対象外
			○謙譲語Ｉと謙譲語IIの区別は，中学生レベルでは難解であると思う。	要検討
18	男性（４８）	団体職員	○「後日お電話をいたします」のように，自分がする電話に「お」を付けるのが正しいかどうかなど，電話での応対の指針も必要である。	対応済
19	男性（４６）	会社員	○指針を見てがっかりした。実際の現場でも使えるよう，「マニュアル敬語」の不適切な例とその理由，言い換える実例を対照させて，現場の店員でも十分理解して使える，実例を豊富に載せたものとしてほしい。	要検討
20	男性（３２）	公務員	○「殿」の使用をやめるようにしてほしい。（「殿」は，将来「様」に統一されることが望ましいと「これからの敬語」で建議されている。）	
			○「貴殿」「貴下」という言葉も，「あなた」に統一されることに国語審議会で決まっていたはずである。	
21	男性（５７）	団体職員	○詳細を読んでいないが，新聞報道を元に意見を述べる。結論は，３分類を５分類に細分化するのは好ましくないということである。理由は ・「美化語」の概念はあいまいであり，尊敬語・謙譲語との区別もしにくい場合がある。特に，丁寧語との区分が恣意的になるのではないか。	要検討
			・謙譲語Ｉと謙譲語IIに分けるのは，形而上学的な操作に思える。	
			・そもそも尊敬語・謙譲語・丁寧語の区分自体あいあまいな部分もあるので，それを更に細分化するのは，一層あいまいになるおそれがある。	

			・戦後，文化庁で発表された「敬語は丁寧語化していくだろう」という主旨にはむしろ逆行するのではないか。	対象外
22	男性（５５）	会社員	○細分化された敬語の分類の面倒くささから，敬語の混乱や衰退を助長することになるおそれもあり，５分類にする必要性を感じない。	要検討
			○美化語の定義は，倒錯した自己中心的な考えを助長するので，丁寧語のままでよい。もの自体が持つ霊的力への畏敬の念や生産者への感謝等から「お」を特定のものに付けていることに言及されていない。	
			○謙譲語の定義から「へりくだる」という用語が消え，伝統的な日本文化が軽く扱われ過ぎている。そのことに，最大の懸念を持つ。	
23	女性（４８）	教員（高校国語）	○従来の３分類の方が敬語を理解し，使用するのに有効である。一般的に３分類が，敬語を理解して使用できる分類の限度である。	
24	男性（８４）	エンジニア 日本語教師	○５分類には賛成である。ただし，謙譲語Ⅰは「謙譲語」，謙譲語Ⅱは「丁重語」と呼ぶ方が良いと思う。	要検討
			○「立てる」は「一段高いものとしてたっとぶ」意味なので，尊敬語のキーワードにはなるが，謙譲語の場合は「へりくだる」がふさわしい。	
			○美化語を丁重語に含めてもよい。どちらも聞き手に対して丁重な“耳易い”言葉を使おうという趣旨で共通している。	
			○丁寧語の「です・ます」は，丁寧語尾と改めてはどうか。	対象外
			○参考として敬語の一覧表を添えた（◆別紙２◆参照）。	要検討
			○第３章の“Ｑ＆Ａ”は，敬語の正確な理解に大変役に立つので，更に充実されることを望む。	
25	男性（３４）	教員	○今回の５分類案は，実態に合った良い案だと思うので賛成する。	要検討
			○謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱという名称は，性質の違いが反映されていないので問題。従来の３名称すべてを廃止して，新たな名称にしたらどうか。	
			○「いただく」「あげる」の美化語化（丁寧語化）と言われている現象はどのように位置付けるのか，明瞭でない。	
			○基本的な用語の定義は厳密にお願いしたい。	
26	男性（６９）	元大学教員	○基本的には，報告案の考え方に賛同する。	
			○小・中・高向けの著述に取り入れられた場合に，権威あるものとして絶対視され，入試で出題されることで悪影響を及ぼす心配がある。敬語の使用を固定的に考えるのは適切でないという立場を固持してほしい。	対応済
			○接頭辞「お」は尊敬語を基本とし，それが変容して謙譲語，美化語に転じていく様を，子供たちが気付いていくことができたらそれでよい。	要検討
			○謙譲語Ⅱには慎重な対処が必要である。謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱを厳密に区別しようとするのでなく，謙譲語の中に丁寧語化していくものがあるということに気付ければよい。	
			○接頭語「お」「御」がその時々で尊敬語，謙譲語，美化語と差異があることを感じ取ることができるのは大切であるが，それらをきとんと区別しないといけないのは煩雑である。この辺の議論を尽くしてほしい。	

27	男性（７２）	元大学教員	○謙譲語Ⅰの定義に「その向かう先の人物を立ててのべるもの」という敬語の目的だけを挙げているが，一般に「謙譲＝へりくだる」との理解が多いことから，「自分側を低く表すことによって」と手段を書き加える。（３５ページの「小社」「愚息」の［解説］で「自分にかかわるものを小さく表すことによって，相手に対する配慮を示す」とあるので，これを応用する。）	要検討
			○謙譲語Ⅱの定義は「自分側の」となっているが，「バスが参りました」の例から，「自分側又は自分が話題とする」としてはどうか。	
			○謙譲語Ⅱの定義は「話や文章の相手」となっているが，一般的理解ということからは，簡潔に「相手」とした方が良いのではないか。	
			○謙譲語Ⅱの定義の「丁重に」が浮いている感があるので，手段を書き加えて，「自分側又は自分が話題とする行為・ものごとなどを低く表すことによって，相手に対して丁重に述べるもの」としてはどうか。	
			○丁寧語の定義の「話や文章の相手」も簡潔に「相手」とすれば良い。	
			○丁寧語の定義にある「丁寧に」を具体的にして「相手を立てる気持ちで丁寧に」としてはどうか。	
			○美化語の定義の「ものごとを」は「行為・ものごとを」とすべきである。「お料理（する）」の例も挙がっているので，「お酒・お料理（する）型」とすべき。	
			○美化語の中で，「あげる」（７ページ）に美化語としての使われ方があることの付記と，「言葉のみだしなみ」という説明も必要であろう。	
			○第２章の尊敬語～美化語の説明の中に「話し手」「聞き手」という語を使用する必要はないか。	
			○２８ページで「おっしゃられる」について言及する必要はないか。	
			○３０ページの「付　敬語との関連で注意すべき助詞の問題」は，１６ページの「６　尊敬語・謙譲語Ⅰの働きに関する留意点」のところで説明する方が効果的である。 ・尊敬語は，話し手が文の主体となる人物（…が，…は）を立てる表現 ・謙譲語Ⅰは，話し手が文の主体となる人物（…が，…は）を低く表すことによって，主体以外の人物（…に）を立てる表現	
			○３７ページの【１４】の【解説１】で「申される」にも言及する必要はないか。	
			○３８ページの【１８】の【解説２】で「せる」「させる」の接続の違いに言及する必要はないか。	
			○４８ページの【３４】に関連して，日常的表現にある「あなた，ネクタイがまがっていらっしゃるわ」，「あなた，バッグのお口があいていらっしゃるわよ」等の言い方に言及する必要はないのだろうか。	
			○朝日新聞(11.30夕刊)掲載の井上史雄氏による謙譲語ひとまとめ論や美化語への批判よりも「敬語の指針」で示された謙譲語二分論や美化語を敬語の一種とする考え方の方が分かりやすい。	
28	男性（５８）	教員	○尊敬語は話し手と話題の事物・人物との上下関係を表現するもので，話し手自身を話題にすることも日常的であり，話題の人物が「相手側又は第三者」に限られるわけではない。	

			○謙譲語は，話し手が話題に現れた人物同士の上下関係をとらえて表現するものである。報告案の謙譲語Ⅰ，Ⅱの定義では，「自分側の行為」などとしていながら，その［解説］では「自分側」の行為以外にも使える旨の記述があり，矛盾している。また，ⅠとⅡに分ける理由がない。 ○丁寧語は，話し手が聞き手に敬意を直接表現したものである。 ○「お○○」の「お」を美化語と尊敬語に分けることは疑問である。	要検討
29	男性（３７）	大学教員	○今回の５分類は妥当なものと考え，その根拠を以下の①～⑤に示す。 ①敬語の使用実態の複雑さに追い付いた説明である。 ②「申し上げる／申す」などの重要な区分が明確にできるので謙譲語を二分することは有益である。謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱという命名は，共通点と相違点を意識でき，教育的効果がある。ただし，初学者にはどちらがⅠ類でどちらがⅡ類だったか，迷うかもしれないが…。 ③謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱの区分によって，古典文法の謙譲語の２類である「奉る・聞こゆ」類と「給ふる（下二段）」の区分にも役立つと思う。 ④小学校１年生の教科書や育児語の中で最も多く使用される敬語である美化語について，３分類では説明する手立てがなかった。 ⑤学習者の負担増という意見もあるかもしれないが，実際に教える内容が大きく変わるわけはなく，区別をあいまいにするか明瞭にするかの違いであって，明瞭にできるのなら明瞭にした方が分かりやすい。	要検討
30	男性（８６）	会社役員	○名称は，謙譲語Ⅰ，謙譲語Ⅱを改め，「謙譲語（「伺う・お目に掛かる」型）」，「恭謹語（「申す・参る」型）」を提案をする。 ○「謙譲語」の定義については「自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて，その向かう先の人物を立てて，また，自分側の行為・ものごとなどを，話や文章の相手に対して謙そんして述べるもの。」とすることを提案する。 ○「恭謹語」の定義については「相手側又は第三者及び自分側の行為・ものごとなどを，話や文章の相手に対して，恭しく謹むまことの心の言葉で述べるもの。」とすることを提案する。	要検討
31	國語問題協議會	団体	○謙譲語Ⅰの定義に「自分側から」とあるのは甚だ不十分であり，間違いと言ってもいい。行為者はだれであってもいいので，「立てる側から立てられる側に向かふ行為・ものごとについて使ふ」と言い換えたい。 ○謙譲語の理解において大きな不備がある。謙譲語については，「話題に現れた人物同士の間の上下関係をとらえて表現するもの」と定義し，上下関係という用語も復活させたい。是非再考をお願いしたい。 ○美化語を立てることは，食べ物などへの尊重の念を一切否定しているという大きな問題があるので，この点については再考をお願いしたい。	要検討
32	男性（５９）	研究員	○「敬語の指針」ではなく，「敬意表現の指針」に変更を求める。 ○商業場面と，世代差が敬語の適切な使用において問題となっている。「素人でもできる失敗しない敬意表現」が求められているのに，今回の報告案では「敬語」に絞られ，「敬意表現」という非言語表現を含んだ幅広いコミュニケーションから後退している。	対象外
			○報告案は，今ある公的な場面で使われる日本語の解析には役立つが，「敬意を表す方法と程度，段階」をまず世に問うべきである。	要検討

			○日本語コミュニケーションで，敬意表現が必要な場面や敬意の程度の解説を加えてほしい。	対象外
			○謙譲語Ⅰ，謙譲語Ⅱの区分は混乱を来すおそれがあるので，将来への課題にとどめるべきである。	要検討
			○「お」又は「御」が付かない語についての説明がなく不十分である。	
			○美化語の使用基準が明確でない。	
			○「御飯」「お米」などは，美化語を立てずとも＜「お・御」＋相手に属する名詞，食物，社会全体で敬意を払う対象物＞として説明可能。	
			○第３章は，指針なのか，補助的な解説なのかが分からない。	対象外
			・第３章・第１は，精神論的な記述ではなく，敬語を使う側と使われる側のコミュニケーションに即して記述すべきである。「使われる側」がどのように感じるかを伝えることが重要である。	要検討
			・同第２は，尊敬語と謙譲語Ⅰの混同がなぜ起きるのか分かりにくい。	
			・同第３は，ピントがずれている。若年者の「自分は」という一人称，女性の「おまえ」という二人称，あるいは「鈴木は」という話中人称の問題について，どのように考えるかが重要ではないか。	
			○報告案は，ここまで具体的なことに踏み込むべきではなく，日本社会が文化としての日本語コミュニケーションを「敬意表現」という側面からどのように考え，国際化の中でどのように日本語の普及を国策として考えるかの基本に置けるようなものにしてほしいと思う。	対象外
33	日本国語教育学会	団体	○内容全体が，広い視野に立ちながらの綿密な調査に基づき，周到で的確な判断の下にまとめられ，十分に信頼できるものになっている。	
			○「『相互尊重』を基盤とする敬語使用」並びに「『自己表現』としての敬語使用」は，これからの社会における敬語使用の理念としても大切に扱われるべきであろう。	
			○「方言」や「世代」や「性」による敬語や敬語意識の多様性を許容し包容する基本的方向は適切である。	
			○敬語の５分類法は，現代の敬語使用の実態に即していて適切なものと判断されるが，特に学校教育の学習と指導の場において，この５分類を採用する場合，これまで以上の努力と工夫が必要とされよう。	要検討
			○第３章は，敬語を具体的に使用する際の指針や手引として，あるいはアドバイスとして，役立つ項目が充満している。必要な場合には，関係する行為の面にも踏み込んで説明を進めている点も良い。	
			○第２章・第３章を通し，敬語の仕組みや使い方に関して社会的慣用をできるかぎり許容し包容する方向でまとめられている点は適切である。	
			○「終わりに」で＜将来にわたる敬語の重要性＞が明記されていることに賛意を表したい。この点でも，国語教育の担うべき役割は大きい。	
34	男性（４８）	教員（高校国語）	○今回の５分類におおむね賛成である。	
			○「敬い」「へりくだり」（「上げる」「下げる」）で説明するところから，「立てる」一本の矢印で説明することにしたのはすばらしい。	
			○今までの名称を踏襲していては，精神論による世間の敬語認識は変わらないので，「尊敬」「謙譲」「丁寧」という名称をやめたらどうか。	

			○余り知識のない人の分かりやすさを考えて，例えば，尊敬語の定義については，「相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについて，その行為をする人物，その状態にある人物，その物事を所有する人物を立てて述べるもの」と少し言葉を補ったらどうか。	要検討
			○経験上，「立てる」べき人物が，話題（素材）の中に出てくる人物と話している相手（対者）とが同一の場合に混乱を招きやすいので，話題の中の人物を立てるのか，話している相手・面と向かっている人物を立てるのかを明確にしてあれば，もっと分かりやすくなるのではないか。	
			○「相互尊重」の意識をまず持てと言われると，敬語を使うことがうわべだけの薄っぺらいものと考える人が出てくるので，「敬語を用いることによって，相互尊重の立場に立って話していることや，その場をわきまえて話していることなどを相手に伝えることができる」としてはどうか。敬語を精神的に位置付けることはなるべく避けるべきである。	
			○著者の見識の高さをひけらかし，書かれていることを覚えるしかないものや，間違いばかりを指摘するような書物では敬語を使うのが面倒になってしまう。敬語使用の気持ちを萎えさせないよう配慮してほしい。	
			○「教育の場（学校）でなるべく普段の会話から敬語（敬体）を使うようにする」ということを書き加え，教育の場（学校）における標準的な使用例を学年に応じて示してほしい。	対応済
35	女性（５２）	辞書編集者 日本語研究者 日本語教師	○敬語の文法（形式）と意味を混同しているため，場面・状況によって意味・用法が異なることを合理的に説明できていない。	要検討
			○説明の表現をやさしくしようとして，かえって正確な理解が難しくなっている。翻訳可能な客観的な表現にすべきである。文法的な意味と実際に尊敬の感情を抱くことは全く別であるのに，強引に両者を合体させようとして，記述に矛盾が生じている。	
			○「ウチ・ソト」の問題や第三者敬語などについては，言葉の説明だけでなく，図解を入れて関係を明示してほしい。	
			○「相手」という用語があいまいである。「聞き手」なのか「動作主」なのか「動作の受け手（対象）」なのか明確にすべき。	
			○指針自体に敬語や記述の誤りがあってはならない。例えば， ・１ページ「様々な立場や分野の方たち」→「方々」又は「人たち」 ・４０ページ「名前」→「姓」（外国人への日本語教育では大問題。） ・４１ページ「『あなた』には中立的な語感があることから，例えば，会議の席上や授業中，あるいは面接試験などでは比較的多く用いられている。」→「あなた」が双方向的に用いられるかのような誤解を与えるので，「あなた」が使えるのは，上から下だけであることを明示する。	対応済
			○「相互尊重」と「自己表現」だけでは不足なので，「上下確認」を加えるべき。（狭い組織社会の中では明確な上下関係が存在し，この関係の維持・調整のために敬語が使われる面を否定してはいけない。権利が平等だから上下はないと考えるのは誤りである。）	要検討

			○「自己表現」という概念により，敬語を使わないのも自己表現であると誤解し，敬語を使う層と，全く使わない層とに二極化して殺伐社会になるおそれがある。→「相互尊重」と「上下確認」を柱として，「自己表現」は「自己の気持ちや立場を表現するために」などの形で，間接的に触れる程度にとどめるべきである。	対応済
			○「敬語についての教育」は，学校教育や社会教育以前に家庭教育が大切である。	要検討
			○公共放送の間違った敬語については，文化庁が適切な指導をすべきであるが，その視点が抜け落ちている。	対応済
			○尊敬語・謙譲語・丁寧語は文法上の分類であるのに対して，美化語は意味上の部類なので，これを同列に並べるべきではないと考える。	要検討
			○謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱを区分するのは賛成だが，区別の基準が不明確である。同じ動詞であっても，人目的語を取る「対象尊敬」と人目的語を取らない「自己卑下（謙遜）」とに分けるべきである。	
			○丁重語という別称は丁寧語と紛らわしく，丁寧語よりも敬意の高い段階のような誤解を受けるので，「自己卑下」又は「謙遜語」とする。	
			○「参る」には，謙譲語Ⅱも丁寧語もあるのに，謙譲語Ⅱだけとしているのは，強引で不可解な説明である。	対応済
			○１７ページの「謙譲語Ⅱは，丁寧語の『です・ます』よりも改まった丁重な表現である」というのは誤りである。謙譲語は飽くまでも自分側の行為を下げるという基本義であるのに対して，丁寧語は聞き手を上げるものであって，謙譲語の程度が幾ら上がっても丁寧語にはならない。	
			○「お＋名詞」「お＋形容詞」の「お」を尊敬語と謙譲語Ⅰに分けようとしているが，話し相手との共通の話題であることが多く，分類不可能なので，すべて丁寧語に一括して教育現場の混乱をなくすべきである。	要検討
			○名詞の敬語を載せるなら，尊敬語は「貴社・御芳名・お父上」の類，謙譲語Ⅱ（自己卑下）は「拙宅・弊社・愚息」の類を載せたい。	対応済
			○美化語を設けるのであれば，目下に対する単独の尊敬語・謙譲語にも言及する必要がある。（上の人から下の人への尊敬語や謙譲語は，自己の品位や教養を誇示するための「自己品位語」である。）	要検討
			○「お」「ご」だけでなく，「あした」－「あす」－「みょうにち」のように改まった場面で使われる言葉についても触れておく必要がある。	対応済
			○１９ページ「６　尊敬語・謙譲語Ⅰの働きに関する留意点」では，だれが動作主か動作対象かが大事であり，それが明らかだからこそ，敬語でもって主語や目的語を省略できるということを踏まえるべきである。	
			○１９ページ「６　尊敬語・謙譲語Ⅰの働きに関する留意点」の（３）は，どうやって判別するのかが不明である。	要検討
			○２８ページ「（３）「敬語連接」とその適否」は，だれが動作主か受け手か分かれば，もっと分かりやすい説明になる。	
			○２２ページ「第２　敬語の形」の「特定の語形（特定形），広くいろいろな語に適用できる一般的な語形（一般形）」という用語は理解しにくい。分かりやすい「交替形式」「添加形式」とすべきである。	

			○３０ページ「いただく」「くださる」は反意語で，正反対の意味の言葉であるのに，視点の違いと意味の違いを混同して，助詞で説明しようとしているため，分かりにくい。	対応済
			○第２章で絶対に言及すべきことが抜け落ちている。 ①目上の聞き手に向かっては，「尊敬語＋丁寧語」「謙譲語＋丁寧語」にしなければならず，単独の尊敬語や謙譲語は不可であること。	対応済
			②一部分を敬語にするだけでなく，場面や状況に応じて文全体・態度・衣服などをコーディネートし，全体を同程度の待遇にそろえること。	対象外
			○「相互尊重」は上下関係のない対等な社会人同士にのみ有効な考え方であり，上下関係（上司と部下など）には導入できない。	要検討
			○３８ページの【１７】は答えになっていない。「～て」で主語が変わることに問題を感じているので，その核心に答えるべきである。	要検討
			○「…させていただく」は次の四つに分けて考えるべきである。 ①相手の許可を得て自分が何かする。 ②相手のおかげで自分が何かできる。 ③自分の行為をへりくだって丁重に言う。 ④相手の意思に関係なく自分の行為を宣言する。	対応済
			○４３ページ【２６】は，自分，課長，部長の人間関係によって，どの言葉を使うかが決まるのに，人間関係を特定しなくても表現が決まっているかのような印象を与える。	対応済
			○４４ページ【２８】の【解説２】で「なれなれしい」という言葉を安易に使っている。「親しみ」は上から下へは見せることができるが，下から上に見せるのは不敬である。「それほど親しくない講師のネクタイを褒めることは，適切だとは言えない」理由を明確にしてほしい。	対応済
			○４７ページ【３３】の「書いていただいてもよろしいですか」は聞いたことがない。（「いただく」「よろしい」を使える人ならば，「お書きいただきたいんですが」「お書きいただけますか」のような常識的な敬語を使うはずである。）	対応済
			○４７ページ【３３】の「書いてもらってもいいですか」は，尊敬語・謙譲語を使わずに何とか婉曲に表現しようとする涙ぐましい努力の現れと見るべきで，相互尊重に立脚した「苦肉の策」の表現と言えよう。	対応済
			○４９ページで「方言」地域での共通語は「改まった言葉遣い」と扱われているが，「方言」地域に引っ越した東京の子が「気取っている」といじめられる実態をどう分析するのか。	対応済
36	全国大学国語教育学会	団体	○「相互尊重」「自己表現」を置き，画一性を否定し，多様性への配慮を示した点については，一定の評価ができる。	
			○３分類に対する敬語研究の動向，説明の整合性の点から５分類は評価できる点もあるが，待遇表現研究，ポライトネス研究をも視野に入れた敬語研究の潮流を踏まえての今回の指針の定位と，あえて５分類とする必然性の明示が望まれる。	要検討
			○学校教育に対する十分な配慮が欲しい。教育上の適切な措置についても具体的な言及が必要である。	対応済

			○母語が日本語でない人々における敬語使用の場合にも，そのまま援用してよいのか，できるのかについても言及が欲しい。	要検討
37	男性（５７）	会社経営	○謙譲語をⅠとⅡに分けても，敬語の種類と仕組みがすっきりし，体系的な知識が深まるとも思えないので，混乱を助長する５分類には反対。	要検討
			○「申し上げる」と「申す」は謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱであるが，「申す」という共通の動詞部分があり，区別しにくい。同様のことは，「召す」「召し上げる」という尊敬語の区分けにも言える。	対応済
			○人々が敬語を混乱しないで使えるには，誤用例の収集を行い，データベース化して，だれでも分かる誤用集を作った方が良い。	
			○５分類は言語変化の中の一時的な分類であり，山田孝雄，橋本進吉，時枝誠記の流れで考えても定説はないので，簡単に決めないでほしい。	要検討
38	男性（５２）	教員（国語）	○とても分かりやすく，早速，授業で使うことを考えている。研究成果がようやく教育現場に下りてきたという感じがする。	
			○２０ページ［（３）イについて］の例文の「昨日」は，「さくじつ」とも「きのう」とも読めるので，読み方を明示してほしい。また，例文には，「遊びにいらっしゃった」ところが明記されていないので，言葉遣いに迷う可能性が出てくる。「自宅に」であれば，「遊びに見えた」という表現がふさわしいのではないかと思う。	要検討
			○２９ページ・１５行目「『伺ってくださる』などの形を使うことができる」について，「…などの形」とあるので，このままでも良いとは思うが，「伺ってくれる」という形も挙げてみてはいかがか。	
39	男性（２３）	大学院生	○敬語の５分類を広く学ばせることには反対である。	要検討
			○３分類をはっきりと区別させた上で，細かく分けると５分類になるという立場を取ってほしい。	対応済
			○敬語とは，人間関係で相手を敬い，やり取りを円滑にするものの一つが表現となったものと考えている。初めて敬語を学ぶ人にとって初めての分野でとっつきにくい上に，更に難しく感じさせる原因となるので，５分類には反対である。また，細かい注記事項などは，知識のある人が「どうだ俺はこんな細かいところを知っていてすごいんだぞ」と主張しているように思えてならない。	要検討
			○「ことばシリーズ」敬語のような冊子を作成し，教育機関に配布若しくは購入を呼び掛け，国語教育にももっと目を向けるべきである。	対象外
40	男性（３８）	会社員	○私は敬語２分割派であり，敬語の根幹は尊敬語と謙譲語であると考えている。敬語を５分類するより，まず尊敬語と謙譲語の２種類をきちんと使いこなせるように，その使い方を明らかにすべきである。	要検討
			○丁寧語に当たるものは英語圏などでも存在するが，日本語で最も特徴的なのは謙譲語である。へりくだりの心から発する決まり文句は，外国語に直訳できないものが多く存在する。	
			○敬語の大事な機能は，発言や動作の主体を暗示する機能である。この機能は尊敬語と謙譲語が持っており，丁寧語にはないことからも，敬語は２分類でよく，丁寧語は敬語とは次元が異なる言葉遣いである。	
41	男性（３４）	団体職員	○敬語の指針がまとめられ，広く社会に周知されることは大変有用。	

			○敬語を「相互尊重」「自己表現」で考えては「どうして敬意を抱いていない相手に敬語を使う必要があるのか」という疑問に答えられない。	対応済
			○社会でのウチ・ソトの区別，親密度と許容される表現との関係などの共通理解を定義した方が分かりやすい。	要検討
			○敬語は，社会において失礼な人間だと思われないための，自己防衛に近いコミュニケーション手法と定義した方が，理解が得られやすい。	対応済
			○３６の問いに対する解説で，複数意見を提示するのは，混乱を生じる可能性がある。回答は「誤解を招くおそれがあるもの」「文法上問題はないが，誤った解釈になる可能性があるもの」「明らかな誤用」といった段階別に提示し，解説する形態の方が分かりやすいのではないか。	
42	男性（３９）	会社員	○美化語について，「お金」は美化していると感じるが，「お料理」のように食べ物に付く場合は，美化とは言い切れない。食べ物に「お」を付けるのは，生きとし生けるものへの感謝と敬意を表していると思う。	要検討
43	女性（５５）	大学講師	○謙譲語Ⅰ，Ⅱではなく，謙譲語，丁重語と明確に分けた方が良い。	要検討
			○丁重語は「申す・いたす・参る・おる・ござる・存じる」の六つを，間違えやすい謙譲語と並べて示してあると分かりやすいと思う。	
			○「御苦労様」の使用に関しては，現在も上位者から下位者へのねぎらいの言葉と認識している人が多いと思うので，上位者から下位者へ使う言葉であると明記した方が良い。	対応済
			○非言語表現として，不適切だと思われる態度を明記した方が良い。	対象外
			○丁寧な表現にするには，「相手に決定権を与える」等，敬語表現的な表現にするには，「婉曲表現」「改まり表現」を例とともに示す。	対応済
			○学生には，尊敬語，謙譲語の主語がどのようになるかを共に示す方が分かりやすいと思う。	
			○「ウチ・ソト」に関しては，「ウチ（自分に関係する人物）」「ソト（相手に関する人物）」「ウチウチ（相手と自分に関係する人物）」「ソトソト（相手と自分には関係のない人物）」というように話題の人物のとらえ方を示すと，学生や一般の人にも分かりやすい。	要検討
			○「あそばせことば」が現在も使われているような記述を目にすることがあるが，６５歳以上の限られた女性が使っているだけなので，現代語の敬語表現に関して「あそばせことば」について明記する必要はない。	対象外
			○中学，高校，大学で，もっと敬意表現・敬語表現の指導を行っていく必要がある。そのために，分かりやすい敬語表現の説明が必要である。	対応済
44	日本話ことば協会	団体	○敬語の種類を５つに分ける案に賛成する。	要検討
			○謙譲語Ⅰ，謙譲語Ⅱと表記するのではなく，「自分を低く位置付けることによって相手に敬意を表すものを謙譲語」「相手に関係なく，丁寧に表現するときに使うものを丁重語」と働きと概念を明確にした呼び方にした方が良いと思う。	
			○「伺う・申し上げる」型と「参る・申す」型に分けるのには無理がある。「参る」は，謙譲語としても丁重語としても使われる場合がある。「参る」を丁重語とすると，謙譲語と認識していた人は混乱する。明らかに相手に関係のない使い方のものだけを丁重語とし，自分の行動について使う「参る・いたす」は謙譲語としてくくることを提案したい。	要検討

			○敬語の基本的な認識，相互尊重，自己表現など説得力があり，現状に即した行き届いた配慮のあるものと感じた。ただ，実際的な運用のためには，一般の人たちのためにシンプルで分かりやすい解説書を作成してほしい。若者に６１ページの答申全体を読んでもらえるか心配である。	対応済
			○個別の指摘は◆別紙３◆参照。	要検討